

般若波羅密多心經

唐の三蔵法師玄奘訳す

觀自在菩薩、深般若波羅密多を行じし時、五蘊皆空なりと照見して、一切の苦厄を度したまえり。舍利子よ、色は空に異ならず。空は色に異ならず。色はすなわちこれ空、空はすなわちこれ色なり。受想行識もまたかくのごとし。舍利子よ、この諸法は空相にして、生ぜず、滅せず、垢つかず、淨からず、増さず、減らず、この故に、空の中には、色もなく、受も想も行も識もなく、眼も耳も鼻も舌も身も意もなく、色も声も香も味も触も法もなし。眼界もなく、乃至、意識界もなし。無明もなく、また、無明の尽くることもなし。乃至、老も死もなく、また、老と死の尽くることもなし。苦も集も滅も道もなく、智もなく、また、得も

なし。得る所なきを以ての故に。菩提薩埵は、般若波羅密多に依るが故に。心に罣礙なし。罣礙なきが故に、恐怖あることなく、（一切）の顛倒夢想を遠離して涅槃を究竟す。

三世諸仏も般若波羅密多に依るが故に、阿耨多羅三藐三菩提を得たまえり。故に知るべし、般若波羅密多はこれ大神咒なり。これ大神咒なり。これ無上咒なり。これ無等等咒なり。よく一切の苦を除き、眞實にして虚ならざるが故。般若波羅密多の咒を説く。すなわち咒を説いて曰わく、

揭帝、揭帝、波羅揭帝、波羅僧揭帝、菩提僧莎訶

般若波羅密多心經